

# 身近な生活レベルから県域レベルまでの交通システム計画

## ◆キーワード

交通計画 高齢者・障害者 自転車  
生活・交通空間デザイン

## ◆産業界の相談に対応できる分野

自転車交通計画 バス交通計画 バリアフリー  
環境設計 社会実験・ワークショップ企画運営

防犯

工学部都市システム工学科

URL <http://www.ibaraki.ac.jp/civil/trans/>

教授 金利昭

TEL 0294-38-5171

e-mail [tkin@mx.ibaraki.ac.jp](mailto:tkin@mx.ibaraki.ac.jp)

教授 山田 稔

TEL 0294-38-5176

e-mail [yamada@mx.ibaraki.ac.jp](mailto:yamada@mx.ibaraki.ac.jp)



金利昭

一言  
アピール

高齢者・障害者の個別移動支援・バリアフリー計画そして歩行者・自転車や都市幹線バスの計画に関する研究です

## 研究概要

環境問題や人口減少、財源制約といった社会経済変動に対応した交通システム計画と生活環境・都市づくりを研究テーマとして、基礎研究から現場の改善までを対象としています。

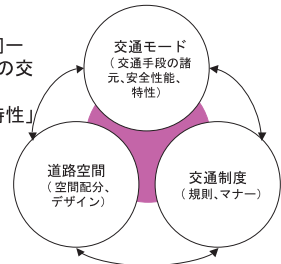
たとえば、今持続可能な交通システムとして世界的に自転車が注目されていますが、当研究室で長年展開してきた「コンパティビリティ（共存性）理論」は、現在我が国で推進されている自転車交通政策の理論的支柱に育ちました。

また、超高齢化社会への対応、そして人々の多様性に適応した生活環境整備が社会的に重視されるなか、人々のニーズ把握、それを反映した計画立案、事後評価とフィードバックといった手法開発を行っています。既存都市ストックを活用する視点から人々の移動システムを題材とし、行政・市民や交通事業者等との連携プロジェクトの中で実践的な成果をあげています。

おもに県内を中心に、各地で、地域公共交通やバリアフリー整備に関するプロジェクトを行政やバス事業者等と共同で行ってきました。地元の日立市はその重要なフィールドであり、ここでは行政やバス事業者だけでなく、タクシーや地域コミュニティ、高齢者支援の各種市民団体等も含めた、多数のプロジェクトに企画・運営・参画し、それらの相互連携による効率化を主要な題材と位置づけて取り組んでいます。

### <コンパティビリティの定義>

共存性は、様々な交通モードが同一交通空間内で共存していくための交通システムの能力であり、「交通モードの諸元・安全性能・特性」「道路空間の配分・デザイン」「交通制度・規則・マナー」によって規定される。共存性を高めるためには三者の同時設計が必要である。



自由・滞留機能重視	通過機能重視	
マナー依存	厳格な交通規則	
~5km/h 程度の速度域を設定	10~20km/h 程度の速度域を設定	30km/h 以上の速度域を設定
低速帯	中速帯	高速帯
・歩行者全般 ・車椅子等 (高速の電動四輪車) ----->	・自転車	・二人用超小型 (小型電動原付) ・自動車等

コンパティビリティ理論と道路計画への展開



地域コミュニティが行っている高齢者の買物サポート



公共交通計画を策定のための住民ワークショップ

何に  
使える?

交通計画を中心とした新たなまちづくり・都市づくり・社会づくりを提案します